

火を育てる体験

<プログラムの概要>

刃物を使った薪割りや薪の加工、マッチを使った火付け、小さな種火から大きな火に育てる過程を体験します。

<ねらい>

火をおこすことは、「灯り、料理、暖を取る」の3つの要素が得られるとともに、先人たちの知恵が詰まった技術です。生存技術の基本である火起こしを学び、生きる力を身につけることが目的です。

場所

野外炊飯場、第二キャンプ場。
雨天時：体育館軒下

時間

2時間～3時間

準備物

【自然の家からの貸出備品】

薪(500円/束)※10名に1束程度、
ナタ、新聞紙、革手袋、
灰缶、十能、火ばさみ、金バケツ、焚き火台

【持ち物】

マッチ(できれば1班10名に1箱分)、軍手、
水筒、救急用品

服装

帽子、運動靴、動きやすい服装
(長袖、長ズボン：ナイロン製は避ける)

準備

<時間>

実施の10分前 【1.所員との打ち合わせ・備品のうけとり】

- ◆事務所、もしくは会場にて、所員と打合せを行う。班編成をしておく。

実施の流れ

<時間>

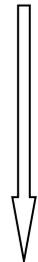
0:00



【2.集合・導入・注意事項の説明】

- ◆会場に集合し、始めのあいさつや導入のお話などを行う。
- <質問>「火は何のために必要？」
- ◆テーマを明確にし、「失敗すること」を前提に試行錯誤しながらやってみることを伝える。
- ◆刃物や火を扱うため、それぞれが安全に活動できるよう、お互いに注意する。

0:20



【3.内容説明・焚き火準備】

- ◆内容説明
 - ・薪割り台を使用し、ナタで薪を割る。
 - ・ナイフで薪を削り火口を作る。 →実際にやって見せながら進める。
 - ・燃えやすそうなものを拾う
- ◆焚き火準備
 - <質問>「火が燃えるための条件は？」→空気(酸素)がある、燃えるものがある、熱がある
 - ・焚き火台に薪を組む。
 - ・試行錯誤を重ねた成功体験に導くために、やり方を全ては教えない。

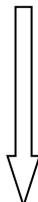
1:00



【4.火をつける】

- ◆マッチで火をつける
 - ・マッチの使い方を説明する。
 - ・班の代表1名が火をつける。
 - ・火がついて安定するまでチャレンジする。
 - ・余裕があれば火のコントロールをする。(弱くしたり強くしたり)

2:00



【5.片付け】

- ◆火の後始末
 - ・可能な限り薪は燃やし尽くす。
 - ・残った灰は灰缶へ。
 - ・道具は元の場所へ。
 - ・残った熱に注意する。

2:20



【6.まとめ】

- <質問>「やってみた感想は？」
- ・実際の生活と関連付けながら、火を扱うことについて考えてもらう。

2:30